



サステナビリティデータブック

2020



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

本PDFのご利用方法

← 左のナビゲーションをクリックすることで、該当のページに移動することができます

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方 03

編集方針 05

会社情報 06

コーポレートミッション 09

森永乳業のCSR 10

7つの重要取組課題 13

●健康・栄養

基本的な考え方 20

体制 20

KPI 20

森永乳業の栄養機能性素材 21

健康寿命延伸への寄与 23

乳幼児の健やかな成長への貢献 24

公衆衛生の向上 28

●環境

基本的な考え方 29

体制 30

KPI 30

環境リスクの認識 31

環境法規制の遵守 31

環境マネジメントを推進する仕組み 31

グループ全体への環境活動の拡大 32

気候変動 33

資源循環 36

水資源 39

サプライチェーンでの環境配慮 40

環境配慮型容器包装の促進 41

●人権

基本的な考え方 42

体制 43

KPI 43

人権方針の浸透 43

労働安全衛生の推進 44

ステークホルダー・エンゲージメント 47

サプライヤー 47

外国人従業員に対する雇用調査 48

ダイバーシティ&インクルージョン 48

働き方改革 51

公平公正な雇用 52

労使の対話 52

●供給

基本的な考え方 53

体制 55

KPI 55

お取引先との品質の取り組み 55

社内での品質の取り組み 60

お客さまへの対応 62

非常時の供給体制の確立 65

●次世代育成

基本的な考え方 67

体制 67

KPI 67

森永乳業の次世代育成活動 67

次世代育成の環境を整える 69

●人財育成

基本的な考え方 70

体制 70

KPI 71

事業を支える人財を育成するための制度 72

健康経営の実践 75

●コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス 78

コンプライアンス 78

情報セキュリティ 80

第三者保証 82

GRIスタンダード対照表 83

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

サステナビリティに関する情報開示の考え方

基本的な考え方

森永乳業グループは10年先を見据えた「森永乳業グループ10年ビジョン」を2019年に制定し、『食のおいしさ・楽しさ』と『健康・栄養』を両立した企業へ「世界で独自の存在感を発揮できるグローバル企業へ」「サステナブルな社会の実現に貢献し続ける企業へ」を当社グループのありたい姿と決めました。この考えのもと、2022年3月期までの中期経営計画における3つの基本方針のひとつに「経営理念実現に向けたESGを重視した経営の実践」を掲げ、7つの重要取組課題を策定しKPIを設定しました。

森永乳業グループは、これまでも「CSRは事業活動そのもの」という考えのもと、持続可能な社会の実現に向けて事業活動を推進しています。その中でもステークホルダーである、お客さま・お取引先・地域社会・株主投資家の皆さま、従業員とのコミュニケーションは、世の中の変化を知り、社会に対して森永乳業がどのような価値を提供していけるかの、道しるべとして重要だと考えています。

コミュニケーションの方法として、統合報告書ならびにサステナビリティデータブック、ウェブサイトを通じて、森永乳業の財務・非財務情報の開示を行っています。情報開示を基に、ステークホルダーの皆さまとの継続的な対話・評価を行い、当社の事業活動に活かしていきます。

開示の形式

統合報告書

株主・投資家さま向けに、2019年度より統合報告書を発行しています。

企業価値の向上と持続的な成長に向けた当社の考え方・取り組みを紹介しています。



WEB

[▶ https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html](https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html)

サステナビリティデータブック（本データブック）

調査機関さま向けに、2018年度よりサステナビリティレポートおよびデータブックの内容を、GRIスタンダードに沿った内容にしています。主に、環境・社会・ガバナンスの取り組み、KPIを中心に開示します。



ウェブサイト

森永乳業では、財務情報を「IR情報」、非財務情報（環境・社会・ガバナンス）を「森永乳業のCSR」にて公開しています。ウェブの特性を活かして、随時最新の情報に更新し、ステークホルダーの皆さまが必要とし、満足していただける情報提供に努めています。



WEB

[▶ https://www.morinagamilk.co.jp/](https://www.morinagamilk.co.jp/)

〈目次〉

＞ サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針
会社情報
コーポレートミッション
森永乳業のCSR
7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証
GRIスタンダード対照表

参考としたガイドライン

以下のガイドラインを参考にサステナビリティの取り組みを含む統合的な情報開示を行っています。

- ・国際統合報告フレームワーク
- ・価値協創ガイダンス
- ・SASB スタンダード
- ・GRI スタンダード
- ・国連グローバル・コンパクト COP (Communication on Progress) 方針
- ・ISO26000

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

＞ 編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

編集方針

森永乳業では「環境報告書」の発行を2000年に開始し、2008年からは「CSR報告書」、2017年からは持続可能な社会の実現に向けて「サステナビリティレポート」として発行してきました。

2020年は、2019年に続きウェブ上のデータの公開のみとし、GRIスタンダードを参照して、グローバルな視点から求められる情報開示を行うとともに、「サステナビリティデータブック」と改題しました。

報告対象範囲

森永乳業株式会社および国内外連結子会社32社により構成された森永乳業グループ全体を報告対象組織としています。

「森永乳業グループ」と記載している場合は、主に国内の森永乳業グループを対象としており、「森永乳業」と記載している場合は、森永乳業単体を対象としています。

報告期間

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の活動を中心に、一部に過去の経緯や発行時期までに行った活動、将来の見通し・予定などについて記載しています。報告書中の各種グラフ・表は原則として、年度（4月1日～翌年3月31日）単位で集計した数値を掲載しています。

参照ガイドライン

この報告書は、GRIスタンダードを参照して作成しています。詳細については「GRIスタンダード対照表」（→ P.83）をご参照ください。

発行日

2020年10月

次回発行予定：2021年9月。年1回発行。

発行部署および連絡先

森永乳業株式会社 コーポレート本部 CSR推進部

〒108-8384 東京都港区芝5-33-1

TEL：03-3798-0129

FAX：03-5442-3691

第三者保証

2019年度のエネルギー使用量、二酸化炭素（CO₂）排出量に関しては、第三者保証を受審しています。

詳細については「第三者保証」（→ P.82）をご参照ください。

免責事項

過去と現在の事実だけでなく、公開日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸与件の変化によって、業績などの将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。また、過去の報告書で提供した情報を修正・再記述する場合や、重要な変更がある場合は、その内容を本データブックに記載します。読者の皆さまには以上のことをご了解いただきますようお願いいたします。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

＞ 会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

会社情報

会社概要

会社名	：森永乳業株式会社 (MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.)
本社所在地	：〒108-8384 東京都港区芝五丁目33番1号
代表者	：代表取締役社長 宮原 道夫 代表取締役副社長 大川 禎一郎
創業	：1917年(大正6年)9月1日
設立	：1949年(昭和24年)4月13日
資本金	：21,761百万円(2020年3月31日現在)
従業員数(単体)	：3,340名(2020年3月31日現在)
	(連結)：6,303名(2020年3月31日現在)
事業内容	：牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品などの 製造・販売 他
URL	：https://www.morinagamilk.co.jp/
事業所(2020年3月31日現在)：	
工場・市乳センター	15か所(佐呂間工場、別海工場、盛岡工場、福島工場、利根工場、東京工場、東京多摩工場・大和工場・東日本市乳センター、松本工場、富士工場、中京工場、近畿工場(2020年3月生産終了)、神戸工場・西日本市乳センター)
支社・支店・商品センター・管理センター	6か所(東北支店、首都圏支社、管理センター、商品センター、中部支社、西日本支社)
研究・情報センター	1か所(神奈川県座間市)

国内連結子会社

森永乳業販売株式会社	株式会社クリニコ
株式会社ナポリアイスクリーム	株式会社東京デリー
森永乳業北海道株式会社	森永乳業九州株式会社
エムケーチーズ株式会社	株式会社シェフォーレ
株式会社フリジポート	株式会社森乳サンワールド
森永酪農販売株式会社	森永エンジニアリング株式会社
株式会社トーワテクノ	株式会社サンフコ
株式会社リザンコーポレーション ^{※1}	北海道保証牛乳株式会社
エム・エム・プロパティ・ファンディング株式会社	日本製乳株式会社
十勝浦幌森永乳業株式会社	富士森永乳業株式会社
東北森永乳業株式会社	東洋醗酵乳株式会社 ^{※2}
横浜森永乳業株式会社	広島森永乳業株式会社
森永北陸乳業株式会社	沖縄森永乳業株式会社
熊本森永乳業株式会社	

※1 2020年4月1日より、株式会社森永乳業ビジネスサービスに社名変更

※2 2020年5月末 解散

主な海外現地法人・合併会社

Morinaga Nutritional Foods, Inc.
MILEI GmbH
Morinaga Milk Industry (Shanghai) Co., Ltd.
Morinaga Nutritional Foods (Asia Pacific) Pte. Ltd.
PT. Kalbe Morinaga Indonesia

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

＞ 会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

商品カテゴリー

牛乳類 「森永のおいしい牛乳」「まきばの空」など 	飲料 チルドカップコーヒー「マウントレーニア カフェラッテ」やチルド紅茶「リプトン」など 	ヨーグルト 「ビヒダスプレーンヨーグルト」「ラクトフェリンヨーグルト」「トリプルヨーグルト」など 	デザート 「森永の焼プリン」「森永牛乳プリン」など 	業務用商品 業務用のクリーム、チーズ、バター、冷菓、粉乳、ビフィズス菌、乳酸菌、乳たんぱくなど 
アイスクリーム 「ピノ」「MOW(モウ)」「PARM(パルム)」など 	クリープ・れん乳・その他食品 「クリープ」「森永ミルク・加糖れん乳」など 	チーズ・バター 「クラフト スライスチーズ」「森永北海道バター」など 	育児用食品 育児用ミルク「E赤ちゃん」「チルミル」、特殊ミルク「ニュー MA-1」、幼児用食品「やさいジュレ」など 	海外用商品 世界中でさまざまな商品を供給しています。 
ヘルスケア・健康食品 大人のための粉ミルク「ミルク生活」、ビフィズス菌を活用したサプリメントなど 	流動食・介護食 流動食・嚥下食・栄養補助食品など（株式会社クリニコ） 	宅配サービス 「森永カルダス」「腸活ミルク」「森永絹ごしとうふ」など 	衛生管理用装置 工場や店舗など食品を扱う場所を高い衛生レベルに保つ微酸性電解水生成装置です。 	海外用商品 世界中でさまざまな商品を供給しています。 

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

＞ 会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

提携ブランド



Kraft

1970 年にチーズおよびチーズ関連商品で技術提携。

KRAFTはKraft Foodsの商標です。



Lipton

1984 年に業務提携。

チルド紅茶飲料などの商品を販売。

リプトンはユニリーバの商標です。



Sunkist

1971 年に商標使用許諾契約を締結。

果汁飲料などの商品を販売。

サンキストはSunkist Growers, Inc., U.S.A. の登録商標です。

[〈目次〉](#)[サステナビリティに関する情報開示の考え方](#)[編集方針](#)[会社情報](#)[＞ コーポレートミッション](#)[森永乳業のCSR](#)[7つの重要取組課題](#)

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

[第三者保証](#)[GRIスタンダード対照表](#)

コーポレートミッション

コーポレートスローガン

｜ かがやく“笑顔”のために

コーポレートスローガンに込めた想い

私たち森永乳業グループがお客さまにお届けしたい価値である「健康と幸せ」の結果として、社会に提供していきたいものを“笑顔”という言葉で表現しました。

「日々の生活や、家族や仲間との団らんを通じて、内面から自然とあふれてくる“笑顔”を生み出していきたい」

そんな私たちの想いをかがやく“笑顔”のためにという言葉に込めました。

経営理念

乳で培った技術を活かし

私たちならではの商品をお届けすることで

健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる

経営理念に込めた想い

お客さまのかがやく“笑顔”のために、私たちは創業から培ってきた力を活かし、商品としての「乳」だけにこだわらず、独自性のある様々な商品やサービスをお届けしてまいります。

それにより、心とからだの両面からお客さまの健康を支え、幸せな生活に貢献することで、笑顔あふれる豊かな社会をつくります。

行動指針

私たちの8つの問いかけ

1. お客さまに寄り添い 感動を共有できていますか
2. 感謝の気持ちを持っていますか 伝えていますか
3. 全ての品質に自信が持てますか
4. 本物の安全・安心を追い続けていますか
5. 常に挑戦し続けていますか
6. 「チーム森永」の輪 築いていますか
7. 今 自分も仲間も生き生きしていますか
8. 夢を語り合い 未来へ一歩踏み出していますか

行動指針の役割

コーポレートスローガンと経営理念を実現するために、森永乳業グループに所属する一人ひとりが行動において心がけるべき指針を策定しました。

森永乳業グループの各種方針

REPORT

人権方針（▶ P.42）／安全衛生基本方針（▶ P.44）／環境方針（▶ P.29）／調達方針（▶ P.54）／品質方針（▶ P.53）

WEB

▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/corporate/vision/>

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

＞ 方針・考え方

＞ 体制

ステークホルダーとコミュニケーション

外部イニシアティブ・団体への参加

社外からの評価・表彰

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

森永乳業のCSR

方針・考え方

CSRの考え方

森永乳業グループは10年先を見据えた「森永乳業グループ10年ビジョン」を2019年に制定し、『食のおいしさ・楽しさ』と『健康・栄養』を両立した企業へ「世界で独自の存在感を発揮できるグローバル企業へ」「サステナブルな社会の実現に貢献し続ける企業へ」を当社グループのありたい姿と定めました。この考えのもと、2022年3月期までの中期経営計画における3つの基本方針のひとつに「経営理念実現に向けたESGを重視した経営の実践」を掲げ、自社の商品・サービス、活動を通じて社会課題を解決し、社会とともに持続的に成長することを目指すため7つの重要取組課題を策定しKPIを設定しました。森永乳業グループでは、7つの重要取組課題に取り組むことで、「笑顔あふれる豊かな社会づくり」に貢献していきます。

体制

CSR推進体制

森永乳業は、社長を委員長とするCSR委員会のもと、グループ全体でCSR活動を推進しています。2016年には、全社横断的機能を果たす専門部署として、CSR推進部を設置し、CSR活動の整備、各部署における活動の横串機能を強化、CSRに関する経営課題に全社レベルで取り組む体制を構築しています。社内への十分な情報発信と共有をはかることで、CSRの考え方を全社に浸透させていきます。

CSR委員会は、取締役会の機能を補強するために設置され、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点からサステナブルな社会を実現するために取り組むべき検討項目を洗い出し、対応、進捗、確認を含む議論をしています。

CSR委員会

社長を委員長とし、役員、関係部署の部長および委員長が指名する者を委員として構成し、事務局はCSR推進部が務めています。定例委員会は原則として半年に1回開催しています。

CSR推進部

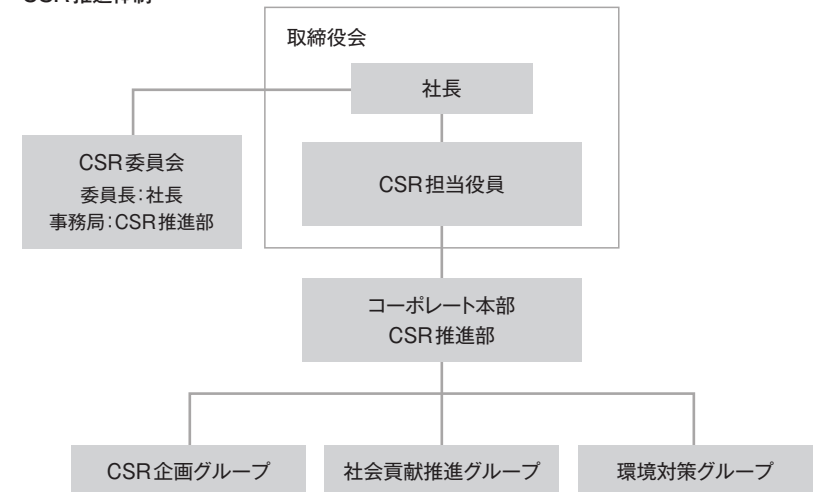
CSR企画グループ、社会貢献推進グループ、環境対策グループで構成されます。

CSR企画グループ：ESG（非財務）情報の発信、企業文化・組織風土改善施策の立案、実施および推進

社会貢献推進グループ：工場見学や食育などの社会貢献活動の推進

環境対策グループ：全社的な環境対策の推進、ISO14001環境マネジメントシステムの運用・管理

CSR推進体制



WEB

コーポレート・ガバナンス報告書

▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/ir/management/governance.html>

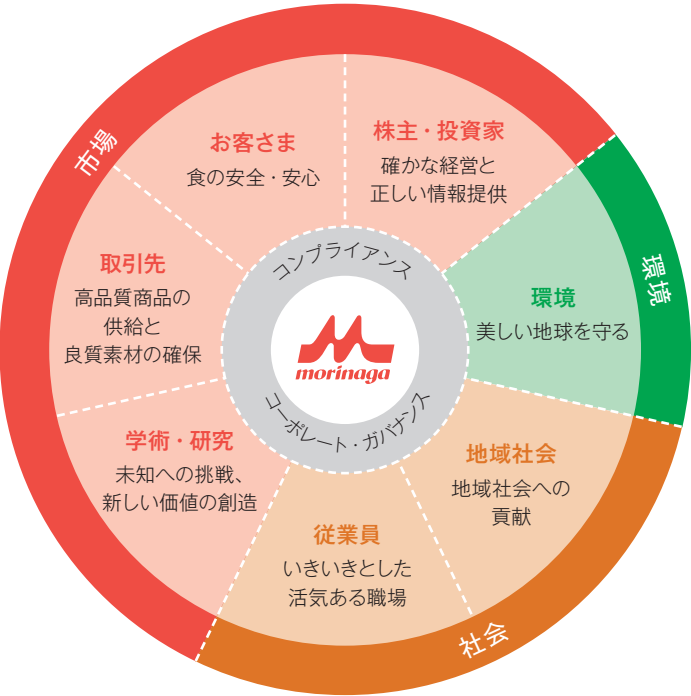
〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
森永乳業のCSR
方針・考え方
体制
ステークホルダーとコミュニケーション
外部イニシアティブ・団体への参加
社外からの評価・表彰
7つの重要取組課題
●健康・栄養
●環境
●人権
●供給
●次世代育成
●人財育成
●コーポレート・ガバナンス
第三者保証
GRIスタンダード対照表

ステークホルダーとコミュニケーション

共感の輪

森永乳業は、7つのステークホルダーに共感の輪を広げることを企業活動の基本とし、それぞれのステークホルダーとの関係において取り組むべきテーマを掲げています。



コミュニケーションの方法

森永乳業は各ステークホルダーについて、以下の方法を使用してコミュニケーションを行っています。

ステークホルダー	コミュニケーション方法と実績
お客さま	①お客さま相談室 ②顧客満足度アンケート調査 ③エンゼル110番 ④森と食の探検隊などの社会貢献活動
株主・投資家	①株主総会（2020年6月） 議決権行使数：407,085 ②個人投資家説明会 2019年度開催数：7回 決算説明会 2019年度開催数：2回 ③IRサイトでの情報発信
取引先	①CSR調達アンケート ②品質向上勉強会・物流勉強会 ③調達先説明会
学術・研究	共同研究・学会発表
従業員	①活き活きサーベイ（従業員満足度調査） ②キャリア調査 ③夢共創フォーラムを通じての対話
地域社会	①工場見学 2019年度来場者数：2.5万名 ②環境清掃活動や催事への参加
環境	①認証原材料の使用 ②環境業界団体の協力と協働 ③工場での周辺清掃

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

方針・考え方

体制

ステークホルダーとコミュニケーション

＞ 外部イニシアティブ・団体への参加

＞ 社外からの評価・表彰

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

外部イニシアティブ・団体への参加

森永乳業はサステナブルな社会の実現のため、さまざまなステークホルダーと対話・協働しています。

グローバルでは、2018年4月に国連の提唱する人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗の防止に関わる10の原則に賛同し、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。



また、原材料として使用している「パーム油」「パーム核油」においては、調達方針に基づき、2018年3月にRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil: 持続可能なパーム油のための円卓会議) に加盟しました。また、2019年4月には、「持続可能なパーム油ネットワーク (JaSPON)」に参加し、理事に就任しました。これからも引き続き、持続可能なパーム油の購入を行っていきます。



私たちの進捗状況を
www.rsponet.orgで
チェックしてください



日本国内においては、牛乳乳製品の品質・生産技術の向上、酪農乳業の発展などに寄与するため、一般社団法人日本乳業協会ならびに全国牛乳容器環境協議会にて2019年度に副会長職を務め、一般社団法人Jミルクにて理事を務めています。

社外からの評価・表彰

森永乳業は、持続可能な社会の実現に向けた活動を推進している企業グループとして、さまざまな外部機関より高く評価されています。また、商品の品質や研究活動、社会活動について、さまざまな外部機関より表彰をいただいています。()内は受賞年月)

評価・表彰	内容
格付け評価	・日本政策投資銀行「DBJ 健康経営格付」最高ランク取得 (2015年12月) ・日本政策投資銀行「DBJ BCM格付」取得 (2018年3月) ・日本政策投資銀行「DBJ 環境格付」最高ランク取得 (2019年3月) ・「SNAM サステナビリティインデックス」構成銘柄選定 (2018年6月、2019年6月) ※現在は「SOMPO サステナビリティインデックス」に名称変更
表彰 (商品)	・「クラフト 無垢 大人の熟成チェダー味」と「クラフト 無垢 大人の熟成ゴーダ味」が、ITI (国際味覚審査機構) のコンテストで「優秀味覚賞“三ツ星”」と「優秀味覚賞“二ツ星”」を3年連続受賞 (2017年、2018年、2019年 (各年6月)) ・「森永ジュレ」シリーズが「2019年マザーズセレクション大賞」を受賞 (2019年11月) ・「トリプルヨーグルト」が日本食糧新聞社第38回食品ヒット大賞「優秀ヒット賞」受賞 (2019年12月)
表彰 (研究活動)	・「アロエステロール」の研究開発の成果である、「アロエベラ由来植物ステロールの新規保健機能研究と機能性食品への応用」が、「日本栄養・食糧学会」で「平成30年度技術賞」を受賞 (2018年4月) ・森永乳業の「ビフィズス菌M-16V」がシンガポールの「Nutra Ingredients - Asia Awards」で「Infant Nutrition Ingredient of the Year」(乳幼児栄養賞) を受賞 (2019年9月) ・森永乳業の「ビフィズス菌BB536」研究が2019年度 日本食品免疫学会「食品免疫産業賞」を受賞 (2019年10月)
表彰 (社会活動)	・「健康経営優良法人2020」大規模法人部門認定 (2020年3月) ・一般社団法人日本有機資源協会主催「第5回食品産業もったいない大賞」で「審査委員会委員長賞」を受賞 (2018年2月) ・「森永リトルエンゼル育成 森と食の探検隊」が、文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」で「審査委員会奨励賞」を受賞 (2018年4月) ・「アニュアルレポート」が「International ARC Awards」で4年連続受賞 (2016年、2017年、2018年、2019年 (各年10月))

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

＞ 7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

「かがやく“笑顔”のために」

このコーポレートスローガンに基づき、森永乳業は7つの重要取組課題を策定しました。次の100年に向けて、サステナブル（持続可能）な社会をつくるため、そして人々の健康に貢献する企業でありつづけるための指針となります。

●健康・栄養

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

- ・「栄養価の高い商品」「嗜好性の高い商品」に対する社会のニーズは高く、また、中長期的には高齢社会が加速することは避けられません。森永乳業独自の研究開発力で、心身ともに健康な社会生活の実現に貢献することをめざします。
- ・人口減少・高齢化が進む中、商品力だけでなくライフスタイルを変革する技術やサービスの創造・提供をめざします。



●環境

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

- ・「気候変動」「森林」などに与える影響を考慮した企業活動を実践します。
- ・限りある資源を有効に活用するためにも、食品ロスの削減に取り組むことを急務とします。



●人権

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

- ・持続可能な社会形成のために、「人」は特に重要な経営資源だと考えています。すべての人の「かがやく“笑顔”」を実現するために、ダイバーシティ（多様性）の推進をはじめ、さまざまな人権課題を社外関係者とともに協力して取り組んでいます。



●供給

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

- ・将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう研究所や工場などと協働しながら、配合設計の研究を重ねています。
- ・安全は、当社の中でも最も重要な取組項目です。現在も行っている安全への取り組みを、引き続き実施していきます。



●次世代育成

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

- ・子どもたちの明るい未来のために、森永乳業は心身の成長やキャリア教育、そして子育てを支援する活動を行っています。



●人財育成

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

- ・新入社員から経営層まで幅広く人財を育成することは、企業の持続的な成長につながります。一人ひとりの適性を活かし、能力をのばすことのできる制度構築をめざします。



●コーポレート・ガバナンス

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

- ・ステークホルダーとの対話、積極的な情報開示を通して、適切なコミュニケーションをはかっていきます。
- ・経営層からの継続的なメッセージとともに、ルールの整備、従業員の意識の醸成、サプライヤーとの公正な取引など、内部統制の構築に取り組んでいます。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

> 重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

重要取組課題の策定

「かがやく“笑顔”」をめざして求められる7つの課題を策定

森永乳業は、2017年4月、新コーポレートスローガンを含むグループ理念体系を策定し、発表しました。

2018年、次のステップとして行ったのが、重要取組課題の策定です。

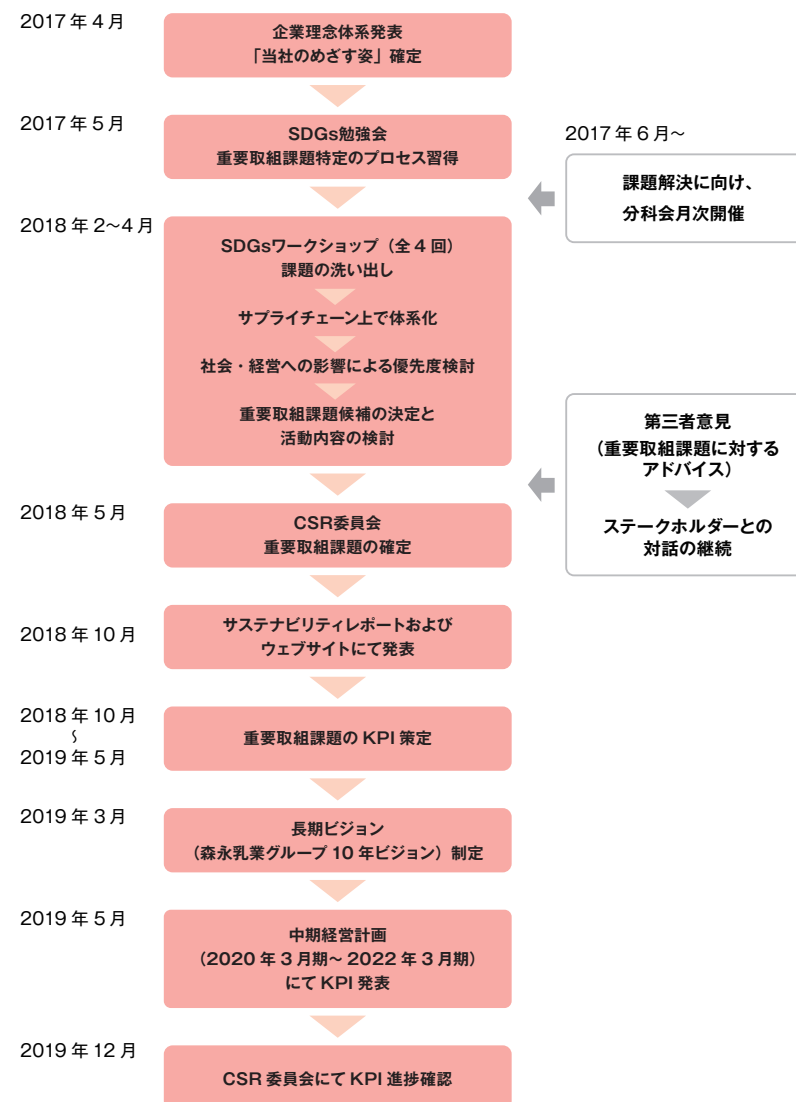
重要取組課題は、私たちの大きな目標である「かがやく“笑顔”あふれる豊かな社会の実現」を目指すために特に優先的に取り組むべき項目です。

策定にあたっては、計4回にわたるワークショップを開催。さまざまな部署から約30名の従業員が参加し、取り組むべき課題を抽出しました。そして協議を重ねて7つの大きな課題を策定し、CSR委員会で承認されました。

持続可能な社会への貢献をめざして

策定にあたっては、行動指針はもちろんのこと、GRIガイドライン、ISO26000、国連が提唱するSDGsコンパスなどを参考にしました。策定した重要取組課題への取り組みを通じ、森永乳業が企業市民として持続可能な社会の実現に貢献できると、私たちは考えています。

重要取組課題策定の流れと進捗



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サプライチェーンでの課題抽出

原材料の調達から製造、販売、廃棄に至るまで、森永乳業の活動は多岐にわたります。7つの重要取組課題を策定した際、サプライチェーン全体で課題解決のために当社が行う具体的な取り組みを決め、その中で特に重要だと思われる項目を特定しました。

各部署・部門が連携し、それぞれの課題に取り組んでいます。

サプライチェーンにおける重要取組課題と具体的な取り組み



WEB → 詳細はCSRサイトへ
▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/csr/materiality/>

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals) は、国連が定めた持続的な開発に関する17の目標と169のターゲット。2015年に採択され、2030年までに達成することを目指しています。「誰一人として取り残さない (Leave no one behind)」を基本とし、経済格差、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、世界が抱える問題を解決するために、各国政府やNGOだけでなく、民間企業もまた日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。森永乳業は、このSDGsの達成に寄与することを目指しています。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
森永乳業のCSR
7つの重要取組課題
7つの重要取組課題
重要取組課題の策定
＜ 取り組み目標の設定
今後の課題解決に向けて
● 健康・栄養
● 環境
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
第三者保証
GRIスタンダード対照表

取り組み目標の設定

2019年度から新しい3カ年の中期経営計画がはじまりました。中期経営計画では、新たな基本方針の中に「経営理念実現に向けてESGを重視する経営の実践」を盛り込みました。この基本方針のもと、7つの重要取組課題の考えを示すとともに、それぞれの課題に対する取り組み目標（KPI※）を設定しました。

※ KPI（Key Performance Indicator）
活動の進捗状況や達成度を客観的に評価・管理するための数値指標。

健康・栄養

基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

活動の方向性	KPI
健康寿命延伸に対する貢献	栄養機能性素材を取り入れた商品の市場投入 ①
	健康維持に寄与する栄養機能性素材についての情報発信
乳幼児の健やかな成長への貢献	ビフィズス菌（M-16V）の提供。国内外で120以上の施設での提供継続 ②

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：
①機能性表示食品「トリプルヨーグルト」発売、大人のための粉ミルク「ミルク生活」拡大（新たな健康習慣創出）
ビフィズス菌、ラクトフェリンなどの研究・訴求
②「ビフィズス菌 M-16V」のNICU（新生児集中治療室）などへの提供。国内外延べ140以上の施設での提供

環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。



活動の方向性	KPI
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	ISO14001 認証事業所： 2030年度までに連結対象の全事業所で取得 ①
	2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握
生産における環境負荷削減	CO ₂ 排出量原単位削減： 2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減
	食品廃棄物発生量原単位削減： 2021年度までに2013年度比30%削減
	産業廃棄物排出量原単位削減： 2021年度までに2013年度比33%削減
	埋立廃棄物量削減： 2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ
サプライチェーン全体の環境負荷削減	用水使用量削減： 2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減
	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定
	環境に配慮した容器包装の使用促進
環境に配慮した容器包装の使用促進	容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量： 2013年度比10%減 ②

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：
①認証サイト数：30サイト（2020年3月31日時点）
2019年度1サイト認証取得。営業事業所としてはじめて首都圏支社で取得
②2013年度比15.9%減（2019年度実績）

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
森永乳業のCSR
7つの重要取組課題
7つの重要取組課題
重要取組課題の策定
> 取り組み目標の設定
今後の課題解決に向けて
●健康・栄養
●環境
●人権
●供給
●次世代育成
●人財育成
●コーポレート・ガバナンス
第三者保証
GRIスタンダード対照表

人権



基本的な考え方

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を充分に発揮できる環境をつくります。

活動の方向性	KPI
ステークホルダーとの対話による人権課題の特定と対策	ステークホルダーとの対話実施
サプライヤーによる人権侵害事案の把握	CSR調達アンケートによる実態把握
自社経営に影響を及ぼす原材料ならびに納入先の特定	重要サプライヤーのリスト化 ①
当社グループ（協力会社含む）の外国人従業員への対応	当社グループの外国人従業員の労働環境整備 ②
ダイバーシティ＆インクルージョンの推進	【2027年度目標】 在宅・サテライト勤務者数、有給休暇取得率、女性採用比率、女性管理職数、配偶者出産休暇取得率、男性育児休業取得率、介護離職者数

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：
①リスト化ならびに実態把握を目的としたアンケート完了
②外国人従業員数調査完了
業務監査時のチェック項目に外国人に関する項目を追加

供給



基本的な考え方

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

活動の方向性	KPI
原料リスクに応じた効率的なサプライヤーマネジメント	原料リスク等によりサプライヤーの管理レベルを評価する仕組みの強化 ①
安全かつ高品質な商品提供のための体制づくり	FSSC22000を2020年度中に当社グループ全29工場 [※] で取得 ② ※生産中止等の理由により対象工場数を23に変更
主要原材料の供給リスク対応	主要原材料の複数社購買、地域分散購買 RSPO 認証パーム油の使用拡大

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：
①原材料のクラス分類、評価実施
クラスに応じたサプライヤー監査を2019年度は23工場で実施
②認証工場数：10工場（国内）（2020年3月31日時点）
2019年度4工場取得（国内）

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
森永乳業のCSR
7つの重要取組課題
7つの重要取組課題
重要取組課題の策定
> 取り組み目標の設定
今後の課題解決に向けて
● 健康・栄養
● 環境
● 人権
● 供給
● 次世代育成
● 人財育成
● コーポレート・ガバナンス
第三者保証
GRIスタンダード対照表

次世代育成



基本的な考え方

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

活動の方向性	KPI
健康で豊かな生活の基礎力を獲得するための食文化や栄養を学ぶ場の提供（食育講座、キッズニア）	2019年から3年間の延べ参加者数30万人 ①
自然の恵みと、それを活かす技術・研究を学ぶ場の提供（工場見学、森と食の探検隊、キャリア教育）	同上
次世代を育成する環境の整備	エンゼル110番での継続的な育児相談の実施。2020年度で延べ100万人の相談を受け付け ②

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：
①キッズニア、工場見学、企業訪問学習などの延べ参加者数約10万人
企業訪問学習2019年度参加者：前年比2倍の約600人
②相談受付延べ人数約98万人
2020年は事業開始より45周年。広報活動強化

人財育成



基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

活動の方向性	KPI
経営理念の浸透	従業員公募型フォーラムの毎年開催
ダイバーシティ推進による、従業員一人ひとりの自律的な成長促進	女性リーダー研修、仕事と子育ての両立を促す研修、プレマネジメント研修の継続的な実施と、若手従業員の人財部による面談実施 ①
グローバルなビジネス環境で活躍できる人財の育成	グローバル人財育成プログラムの推進 ②
健康経営の実践を通した人財の育成	健康診断の「危険値に該当する者」の2次検診・再検査受診率の向上：80%（2023年） メンタルヘルス教育の受講率：100%（2023年）

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：

- ①各種研修を予定どおり実施
入社1～3年目社員との面談実施
- ②延べ参加者数96人
2019年度20人参加

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題
重要取組課題の策定

＞ 取り組み目標の設定

＞ 今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

第三者保証

GRIスタンダード対照表

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

活動の方向性	KPI
取締役会における、多様な価値観に基づいた、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定	取締役会評価における評価点およびコメントの内容（取締役会の多様性、審議内容）①
マネジメント体制の強化	各種定例委員会（人事報酬委員会、内部統制委員会、CSR委員会）の充実 ②

主要KPIの進捗状況（表中のKPIにつけた番号に対応）：

- ①評価結果から取締役会の実効性確保を確認
取締役会のさらなる実効性向上を目的として、評価結果から課題を抽出、改善に活用
- ②人事報酬委員会：役員報酬制度の改定等を取締役会に具申
内部統制委員会：企業秘密管理体制強化を目的として情報セキュリティ部会に分科会を新設
CSR委員会：ESG重視経営の加速を目的として分科会（調達等）を複数新設

今後の課題解決に向けて

森永乳業は2018年度に「重要取組課題」を策定し、2019年度に各重要取組課題のKPIを設定しました。2019年度はKPI達成のため、重要取組課題毎に進捗報告会を設け、「KPI推進リーダー」を中心として進捗管理を実施しました。また、KPIは世界的な潮流、ステークホルダーとの対話を通じて、適宜議論の俎上に載せ、検討していきます。

世界的な関心の高さから気候変動、海洋プラスチック、サプライチェーン上の人権の尊重（人権デューディリジェンスの実施）についてはいずれも社会課題として認識し、引き続き確認していきます。

今後も社会との共感の輪を大切にし、各ステークホルダーとの対話を通じて、社会課題を解決していきます。